

調査番号

100

事業名	普及情報システム体制整備費	財務コード (事業)	062903
-----	---------------	---------------	--------

細事業名	EK - SYSTEM利用費
------	----------------

担当部課室	農政 部 農業技術 課 普及指導 担当 (内線)	5354
-------	--------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H6 年度 ~ 終期 年度			
実施主体	県 (直営)			
事業の目的	<table border="1"> <tr> <td>誰(何)を対象に 農業者に技術指導を行う普及指導員</td> <td>その対象をどのような状態にして 普及指導員が情報を収集して技術や経営の情報を提供できる</td> <td>結果、何に結びつけるのか 農業の生産性向上</td> </tr> </table>	誰(何)を対象に 農業者に技術指導を行う普及指導員	その対象をどのような状態にして 普及指導員が情報を収集して技術や経営の情報を提供できる	結果、何に結びつけるのか 農業の生産性向上
誰(何)を対象に 農業者に技術指導を行う普及指導員	その対象をどのような状態にして 普及指導員が情報を収集して技術や経営の情報を提供できる	結果、何に結びつけるのか 農業の生産性向上		
事業の内容 主に 24年度	<p>事業概要 農業者のニーズに対し農業の生産性の向上を図るため、普及情報ネットワーク(EK - SYSTEM)により全国の優良事例や最新の技術及び経営情報を収集し、また県域を越えた情報や意見交換を効率よく行うことで、効果的な普及指導活動を行う。</p> <p>EK-SYSTEMの概要 ・システム運営主体 (社)全国農業改良支援協会 ・整備状況 本庁主務課、7普及センター ・収集できる情報 全国の優良事例、技術図書、情報誌 利用実績 H23年度 6,937回 H24年度 3,924回</p> <p>EK-SYSTEM:普及情報ネットワークシステムのことで、普及情報活動を支援することを目的に設置され、(社)全国農業改良普及支援協会が当該システムの整備・運営事業を実施している。普及事業に関わる組織や人的情報のほか、普及事業に携わる普及指導員等がより効果的・効率的に活動するための技術や経営情報が提供される。また、都道府県同士で普及活動事例・現地優良事例等の相互提供や県域を越えた情報交換が可能となっている。</p>			
根拠法令等	農業改良普及事業実施要領			

事業の目標、実施状況等 (事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度		23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
		実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標	技術図書、情報誌の閲覧ページ数	36,000 頁	24,000 頁	20,000 頁	24,000 頁	24,000 頁	活動指標 目標設定の考え方 過去の利用頻度等に基づき目標設定 データの出典等 予算見積書
	活動指標達成率 (実績値/目標値)			83.3 %			
成果指標	農業者を対象にした講習会参加人数	10,117 人	10,000 人	10,152 人	10,000 人	10,000 人	成果指標 目標設定の考え方 過去の実績数値 データの出典等 普及センターの活動報告書
	成果指標達成率 (実績値/目標値)			101.5 %			
決算額、予算額		654		634	634	653	成果指標によらない成果 農業者を対象にした講習会の開催回数 ・H23年度 486回 ・H24年度 366回 気象災害の発生、病害虫の発生状況により、毎年変動する。 高温や局地的な豪雨、渇水など気象状況が著しく変化する中、EK-SYSTEMにより、最新の技術情報や優良事例などの情報を収集し、農業者に講習会を通じて効果的に指導している。
(千円)	うち一財額	327		318	318	328	
所要時間 (直接分)		3,468 時間		1,962 時間	2,000 時間	2,000 時間	
所要時間 (間接分)		0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計		3,468 時間		1,962 時間	2,000 時間	2,000 時間	
人件費1人単:千円 (@2,050円 × 所要時間)		7,109		4,022	4,100	4,100	

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断 (平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)		
数値判定 H24年度 活動指標 達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H24年度 成果指標 達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記入すること
b	b	平成24年度の農業者を対象にした講習会参加人数は、目標10,000人に対し実績10,152人、達成率101.5%となっている。また、高温や局地的な豪雨、渇水など気象状況が著しく変化中、EK-SYSTEMにより、最新の技術情報や優良事例などの情報を収集し、農業者からの講習会の要請に応じて効果的に指導していることから、意図した成果はほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性 (平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価 (担当部評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目
有	技術図書や情報誌の閲覧は24,000頁が上限であり、遅霜の被害が発生するなど閲覧頻度が高い年度末に利用調整を行わなければならないなど、必要な時期に十分に利用できない年がある。異常気象などで利用が多くなることが予想される中、効率的な利用を図るため、普及指導員に利用頻度やニーズ等を調査し、所属ごとの利用目安を設定する等の工夫を検討する。	m

・「以外の判断項目」の欄
 必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担
 (g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価 (担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の 判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向 (平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	効果的、効率的な利用を促すとともに、普及指導員の利用状況を把握し、各所属ごとの利用目安を設定する。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。